



園だより 12 月

「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。

その名はインマヌエルと呼ばれる。」

マタイによる福音書 1 章 23 節

冬の訪れとともに紅葉のときも感じているこの頃。気候に変化が見られる中、ゆっくりと一つひとつの四季の恵みを感じながら楽しさと喜びを味わうことはもう叶わないことなのでしょう。そんな少し残念な気持ちを持ちつつも、幼稚園では紅色や黄色に色づいた桜や白木蓮の葉っぱは宝物のように子どもたちの遊びに彩りを添えています。どんなものも意味を持って備えられた環境の中では大切な教材になる自然の恵みに感謝の 11 月でありました。

園生活はロビーやお部屋の様子が少しずつ変わっていき、毎日礼拝が守られることなどで子どもたちの心は穏やかに動き、静かなそのときに個々のペースで身を委ね過ごしています。また、それぞれのときにそれぞれに届く「光」に温かな喜びのときをしみめています。

アドヴェントを過しながらイエス様のお誕生を待ち望む。自分に、お友だちに光が届くときを待つ。

11 月は「待つ」ことを意識して過ごす良いときを毎年与えられています。改めて江東 YMCA 幼稚園の想いとしての子どもたちの成長を待つことの大切さ、それによって育まれる子どもたち自らの成長が、子どもたち同士の日常から様々に認められる日々であることに気持ちを向けて過ごすそんなひと月でありました。1 学期のころ、本当にお互いの些細なことがゆるせない子どもたち同士、様々なぶつかり合いがみられました。その内容、その状況は年齢、学年によって違いましたが、どの状況もあと少しお互いの心に寄り添い合えたら・・・、でも今はその成長段階かな・・・と感じられるものでした。

その都度、保育者はお互いの気持ちに寄り添い、代弁をしたり一緒に考えたり保育者の想いを伝えたりしながら、気付き、心を動かし変わっていく（心が成長する）子どもたち自身の成長を願い信じて待ちました。そして日々の経験を通しての今、子どもたちの様子といえば、なんともこやかにお互いの気持ちを受け入れ合いながら遊びを展開し過ごしています。確かな心の成長が見て取れます。子どもたち自らの成長がより豊かなものであるようにと保育者たちが環境（人的環境も含む）を備え、子どもたち自らの成長を信じ待った結果です。その豊かで沢山の恵みを「待つとき」を子どもたちと共に喜び合いながら過ごした 11 月となりました。

12 月は神様の愛に包まれた真の喜び溢れるクリスマスを迎える月です。幼稚園全体でオーナメントを飾り、「光」を喜び待ち続け、年長さんは大切な神様のお仕事を担い迎えるクリスマス。保護者の皆様とご一緒に迎えられること感謝いたします。